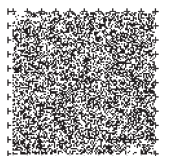


## 第2章

# 福岡県の青少年の 現状



## 第2章

### 福岡県の青少年の現状

## 第2章 福岡県の青少年の現状

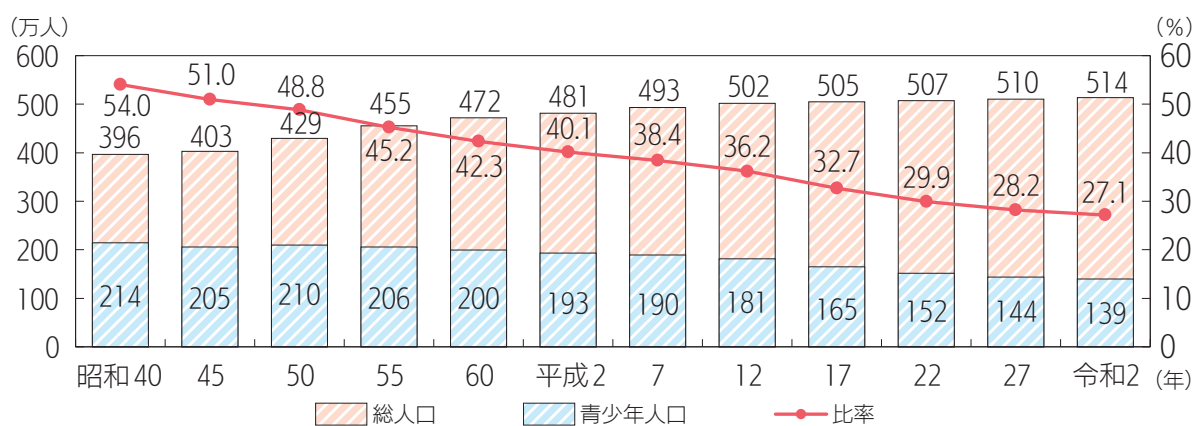
### 1 青少年の人口と家族形態の変化

#### (1) 青少年人口の減少

2020(令和2)年の国勢調査では、本県の総人口は5,135,214人、青少年(0~30歳未満)の人口は1,393,906人となっています。

また、総人口に占める青少年人口の割合は、27.1%となっています(図1)。

【図1】総人口・青少年人口及び総人口に占める青少年人口の割合(福岡県)

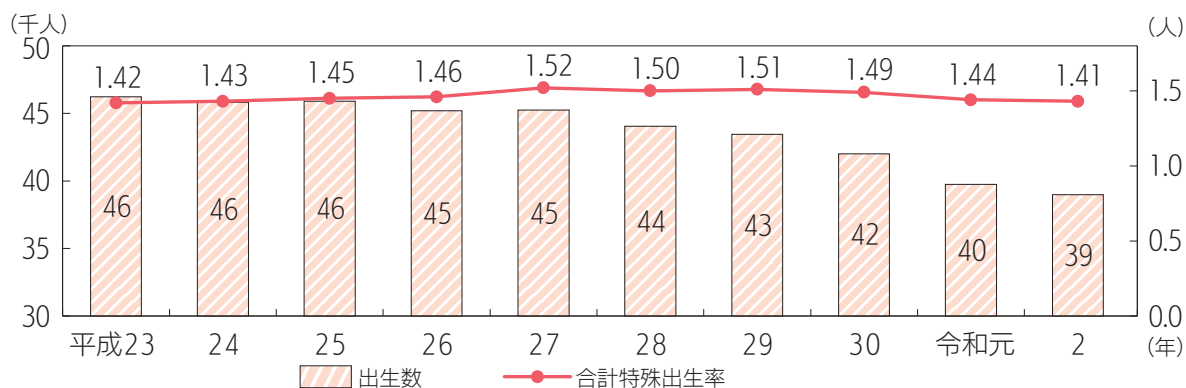


#### (2) 少子化の進展

本県の出生数は、近年減少傾向にあり、2020(令和2)年は38,966人となっています。

また、合計特殊出生率(一人の女性が一生の間に生む子どもの数の平均)は、2020(令和2)年には1.41となっています(図2)。これは現状の人口を維持するために必要とされる水準である2.07を下回っています。

【図2】出生数と合計特殊出生率の推移(福岡県)

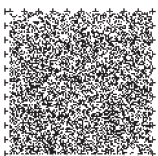
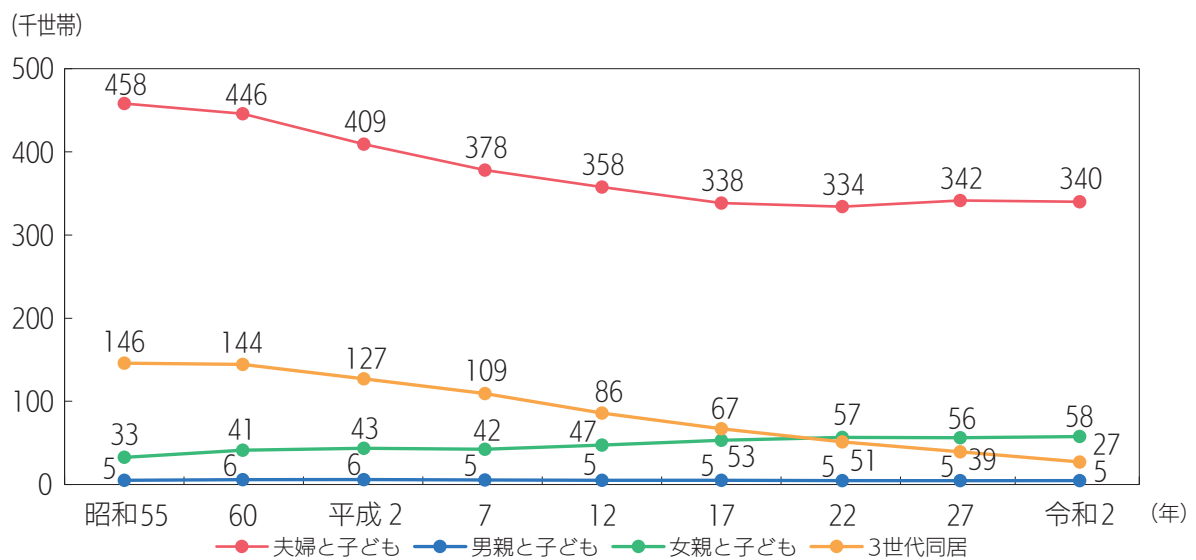


### (3) 家族形態の変化

2020(令和2)年国勢調査では、本県の一般世帯数は231万8千世帯で、1世帯当たりの人員は2.15人です。

また、本県の18歳未満の親族のいる世帯数のうち、3世代同居世帯は減少傾向にある一方で、ひとり親家庭の世帯は増加傾向にあります(図3)。

【図3】18歳未満の親族のいる世帯数の推移(福岡県)



## 2 青少年を取り巻く環境

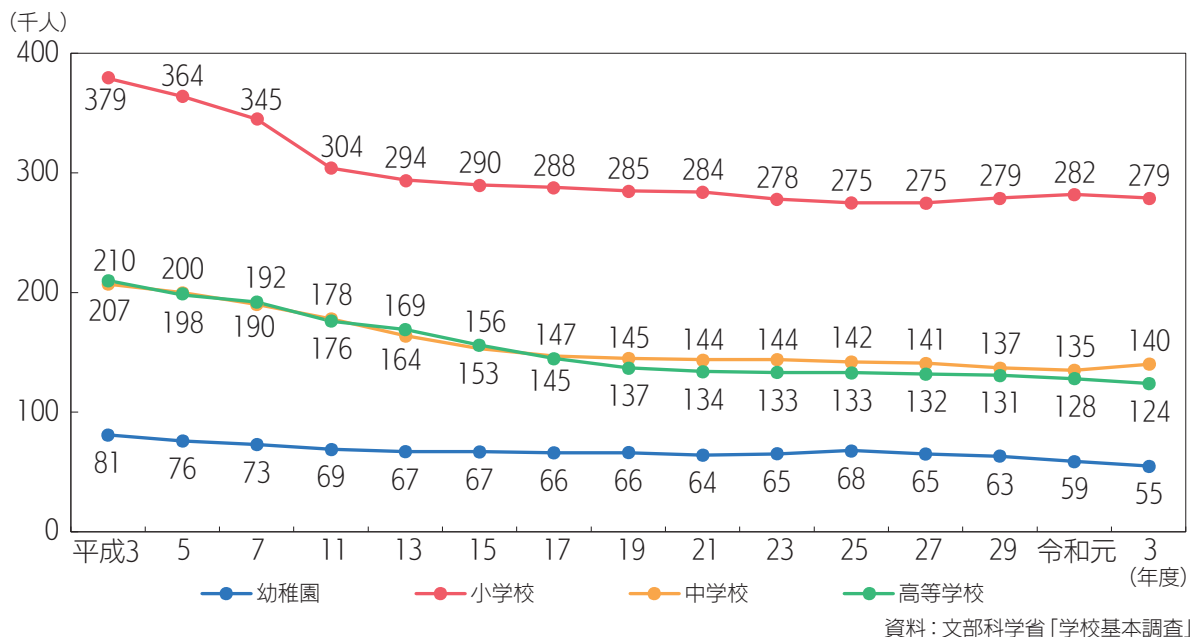
### (1) 学校環境

#### ① 県内学校在籍者数の推移

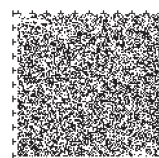
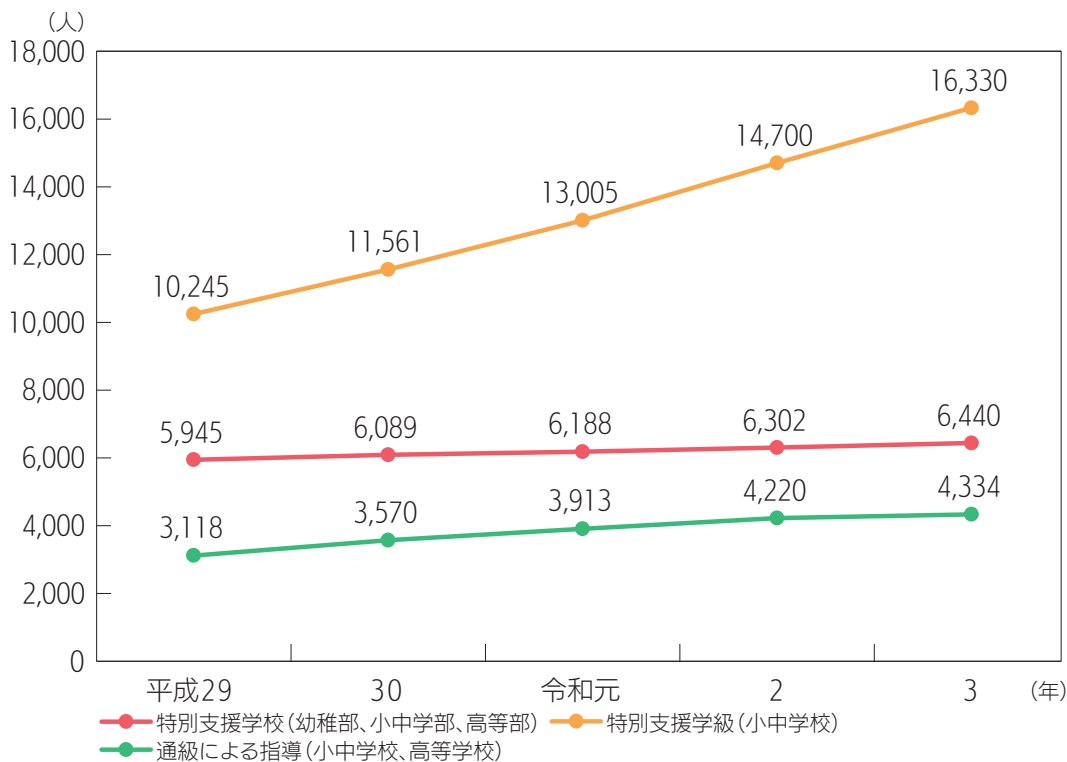
近年、本県の児童生徒数は、横ばいの状況にあります(図4)。

特別支援学校、特別支援学級に在籍する児童生徒数や通級による指導を受けている児童生徒数は、一貫して増加しています(図5)。

【図4】園児、児童及び生徒数の推移(福岡県)



【図5】特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室対象者数の推移(福岡県)



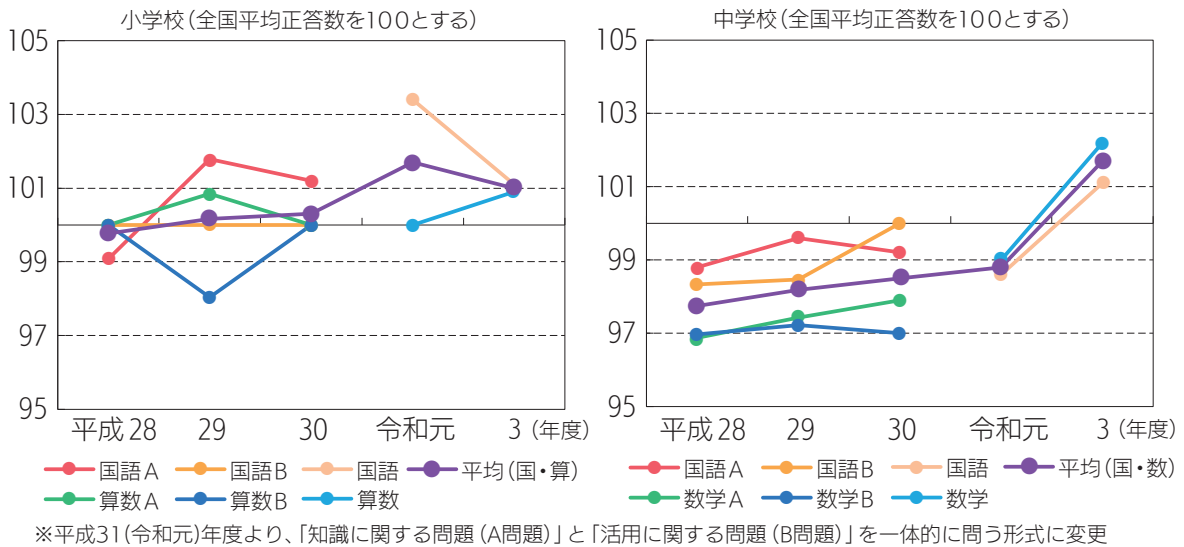
## ②学力・体力

本県の子どもの学力について、文部科学省「全国学力・学習状況調査」(2021(令和3)年度)における標準化得点<sup>\*</sup>は、公立小学校及び公立中学校の全教科区分で、調査開始以来、初めて、全国の平均より高い結果となっています(図6)。

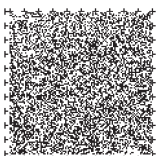
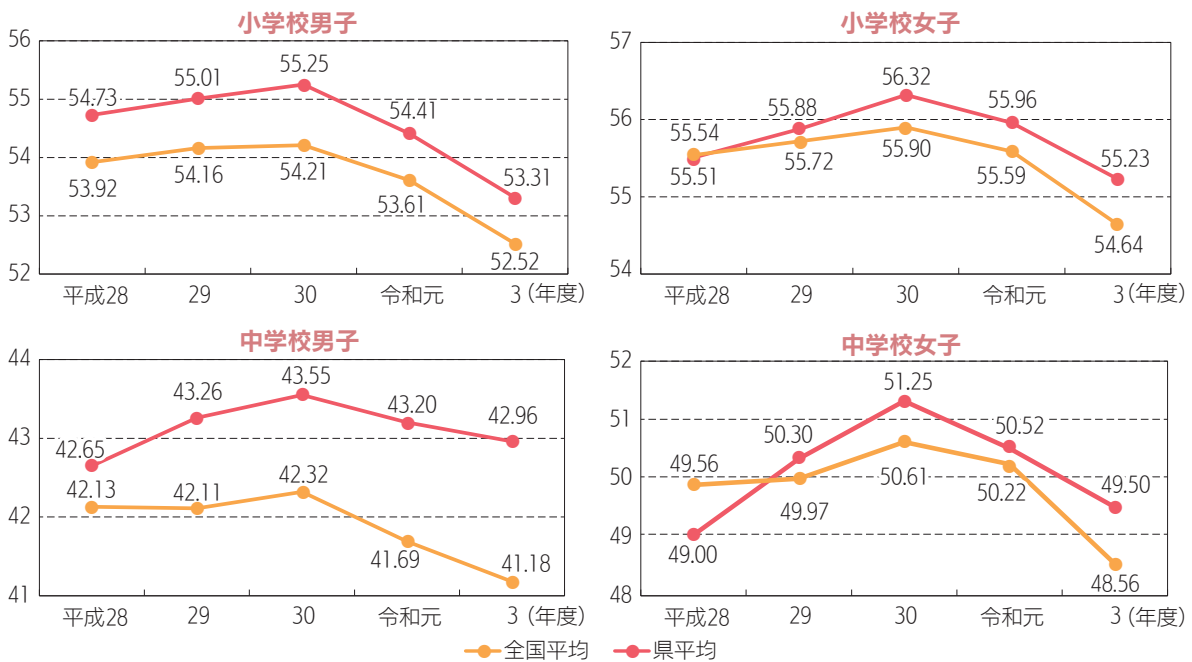
また、体力は、スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(2021(令和3)年度)では、小学校及び中学校の男女すべての区分で全国平均を上回っています(図7)。

<sup>\*</sup>標準化得点 = (本県の平均正答数) / (全国の平均正答数) × 100

【図6】標準化得点の推移(福岡県)



【図7】体力合計点平均値の推移(全国・福岡県)

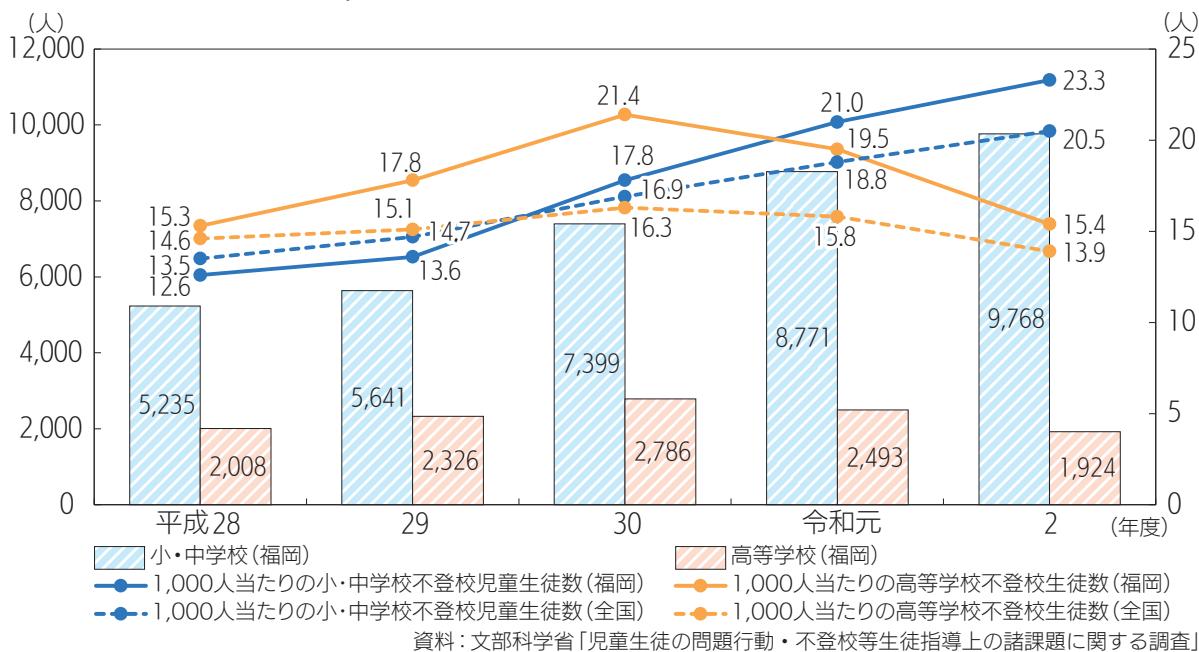


③不登校

本県の小・中学校における不登校児童生徒数は、増加傾向にあります。

2020(令和2)年度の本県の1,000人当たりの不登校児童生徒数は、小・中学校が23.3人、高等学校が15.4人で、いずれも全国平均を上回っています(図8)。

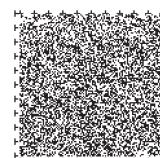
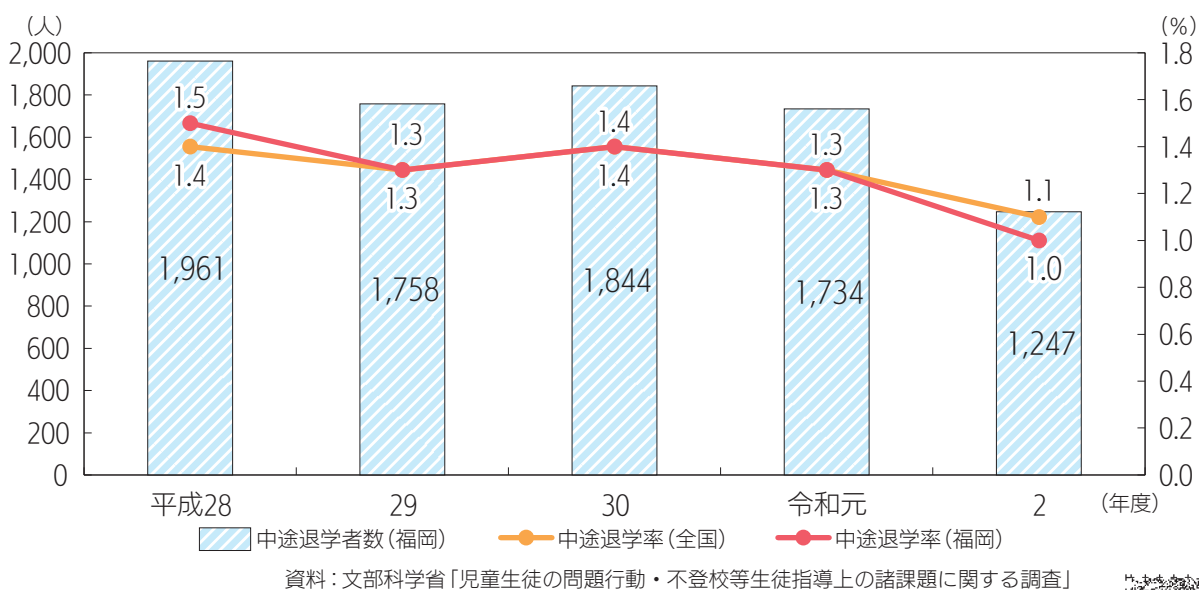
【図8】不登校児童生徒数と1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移(全国・福岡県)



④中途退学

本県の高等学校の中途退学率(在籍者数に占める中途退学者数の割合)は全国値と同程度となっています(図9)。

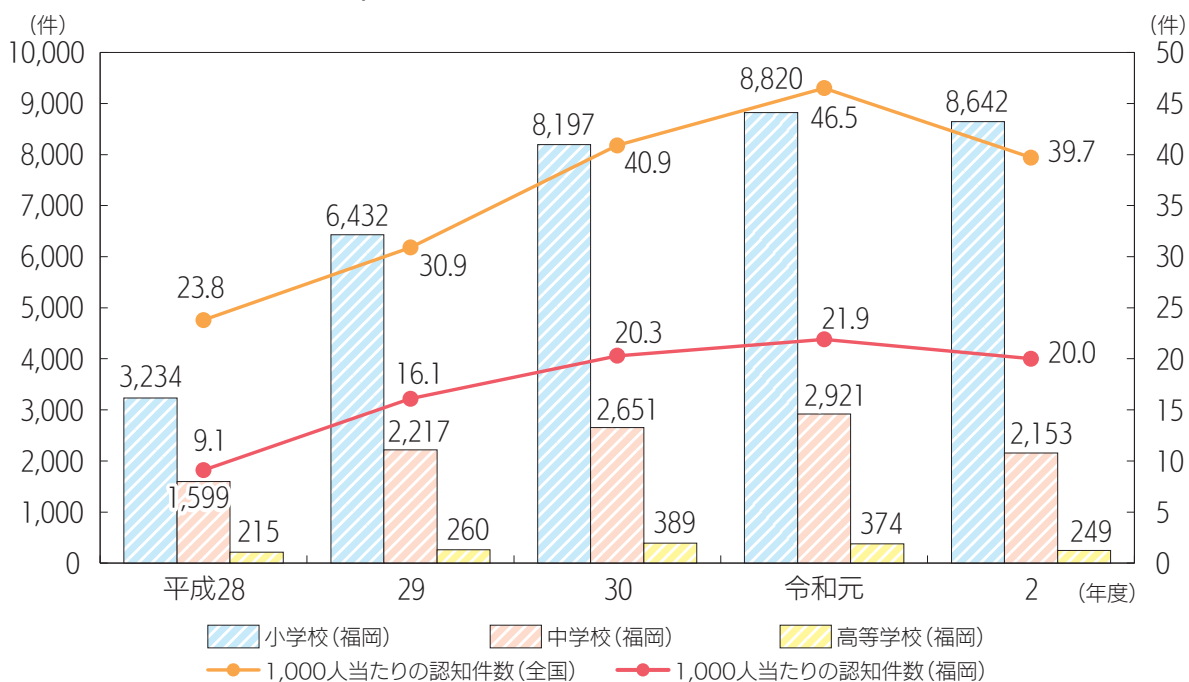
【図9】中途退学者数と中途退学率の推移(全国・福岡県)



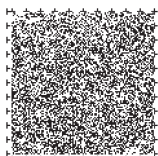
⑤いじめ

いじめ防止対策推進法の制定後、いじめの認知件数は全国的に増加傾向にあり、2020(令和2)年度の本県はいじめの認知件数は、小学校8,642件、中学校2,153件、高等学校249件となっています。本県の1,000人当たりの認知件数は、20.0件となっており、全国値に比べて低い状態で推移しています(図10)。

【図10】いじめの認知件数と1,000人当たりのいじめ認知件数の推移(全国・福岡県)



資料：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」



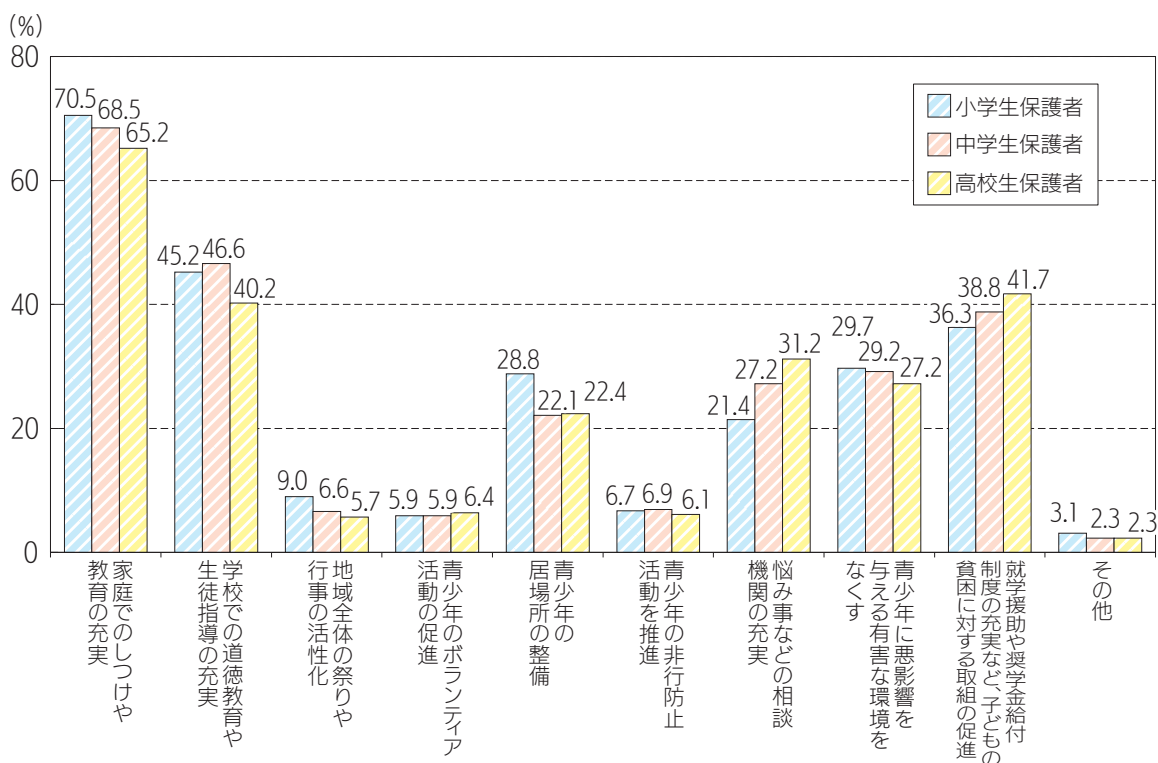


## (2) 家庭と地域

### ①家庭の教育力

2020(令和2)年度に実施した福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(以下、「青少年県民意識等調査」という。)によると、青少年の健全育成に必要な取組としては、いずれの保護者とも「家庭でのしつけや教育の充実」が最も多く、次いで小学生保護者、中学生保護者では「学校での道徳教育や生徒指導の充実」、高校生保護者では「学校での道徳教育や生徒指導の充実」、高校生保護者では「就学援助や奨学金給付制度の充実など、子どもの貧困に対する取組の促進」となっています(図11)。

【図11】青少年の健全育成のために必要な取組(保護者調査)(福岡県)



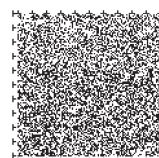
資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

### ②地域におけるつながり

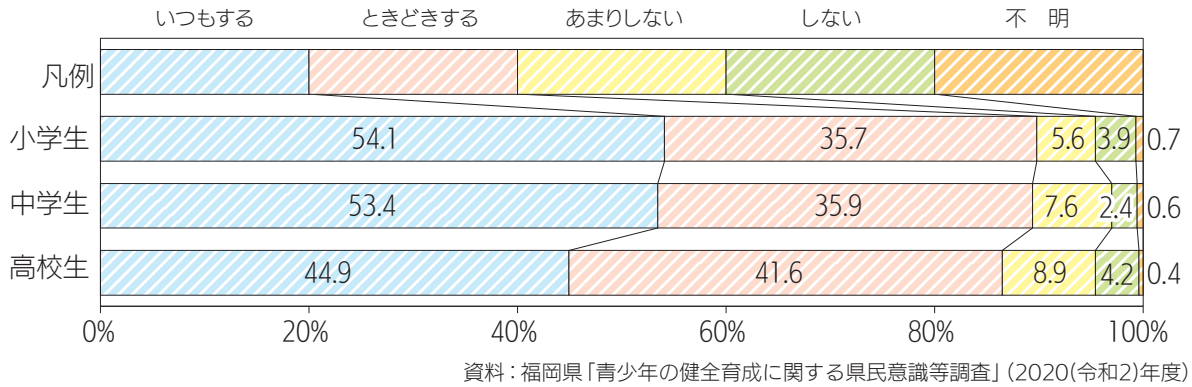
「青少年県民意識等調査」によると、小・中・高校生すべてで8割以上が近所の人にあいさつしていますが、年齢が上がるにつれ、あいさつする割合は減少しています(図12)。

保護者の近所の人とのかかわりの程度は、立ち話や会えばあいさつする程度で、困ったときにお互い相談したり、助け合ったりするのは1割にとどまっています(図13)。

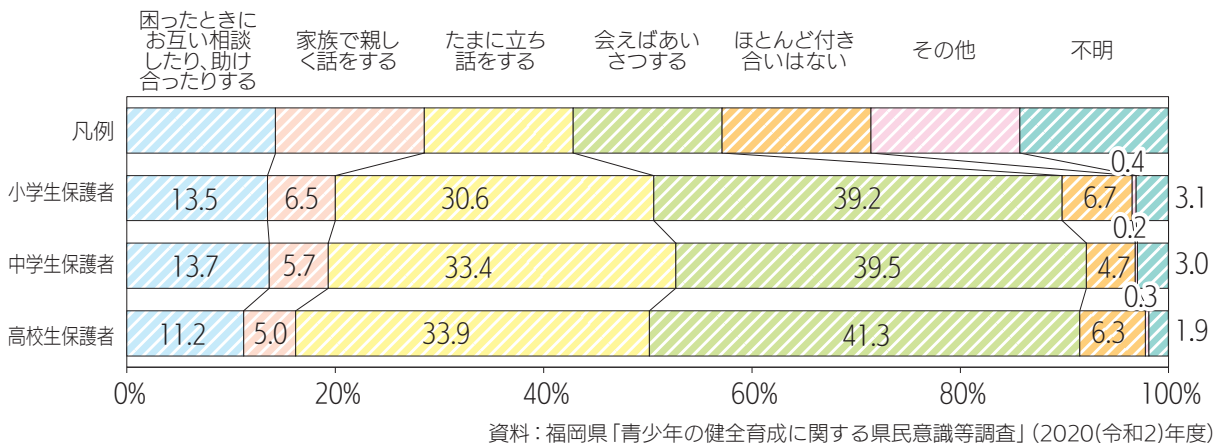
また、前回調査(2016(平成28)年度)と比較すると、近所の子どもの悪いことをしても、叱らない大人が増えている傾向が見られます(図14)。



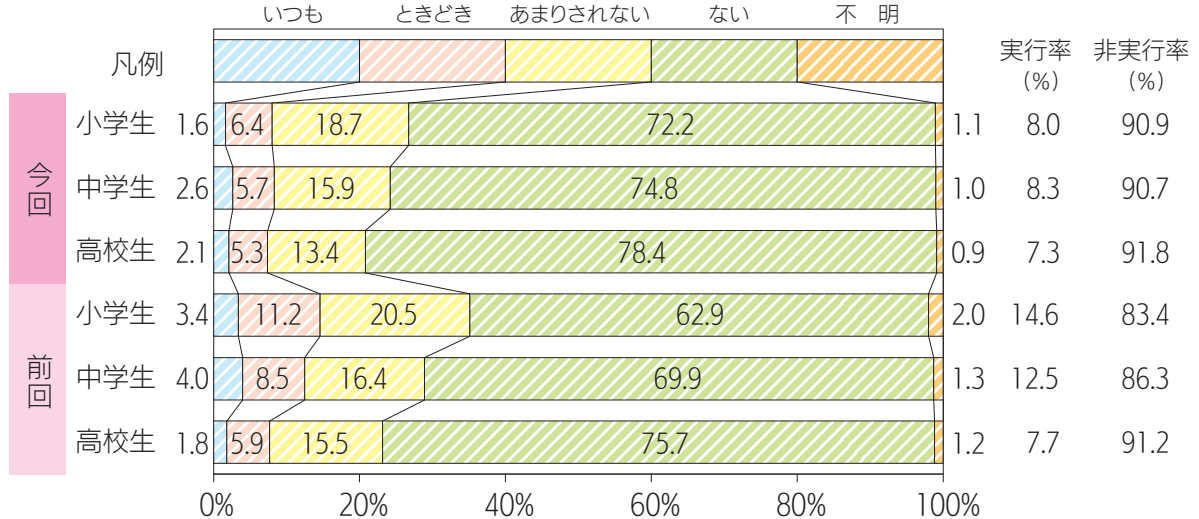
【図12】近所の人にあいさつする(福岡県)



【図13】近所の人とのかかわり(保護者調査)(福岡県)



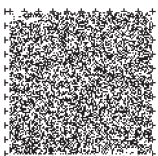
【図14】あなたが悪いことをしたとき、近所の人からしかられる(福岡県)



※『実行率』は、「いつも」と「ときどき」を合わせたもの『非実行率』は、「あまりされない」と「ない」を合わせたもの

資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

※前回調査は2016(平成28)年度実施



### (3) 情報化社会の進展

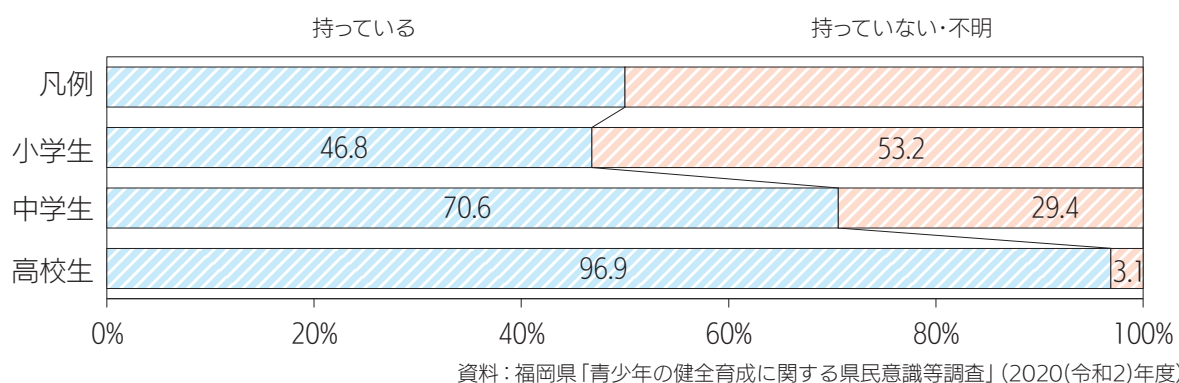
「青少年県民意識等調査」によると、小学6年生で4割台半ば、中学2年生で7割強、高校2年生で9割台後半が、自分専用のスマートフォン等を所持しています(図15)。

また、小・中・高校生の3割、大学生の8割が平日に学校以外で、3時間以上インターネットを利用しており(図16)、多くの小・中・高校生は、インターネットで、メールやLINE等の利用やホームページやブログ、YouTube等を見ています(図17)。

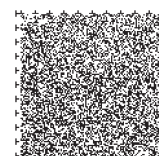
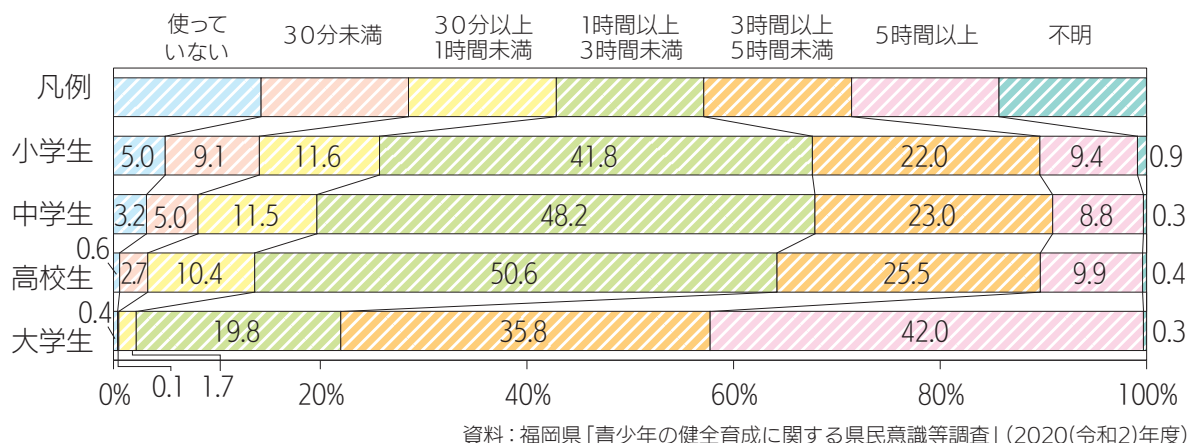
インターネットを利用するようになってから変化したことで、「増えたり、広がったりした」回答が多いのは、小・中・高校生のすべてで「生活の楽しさ・面白さ」、中学生、高校生で「友達とのコミュニケーション」、高校生で「新しい知人を得る機会」です。一方で、「減ったり、狭まったりした」回答が多いのは、「睡眠時間」、「読書時間」、「学習時間」で、年齢が上がるほどその傾向が強くなっています(図18)。

インターネット上には、違法・有害な情報が氾濫していますが、本県の児童生徒のフィルタリングの使用状況は5割以下にとどまっています(図19)。

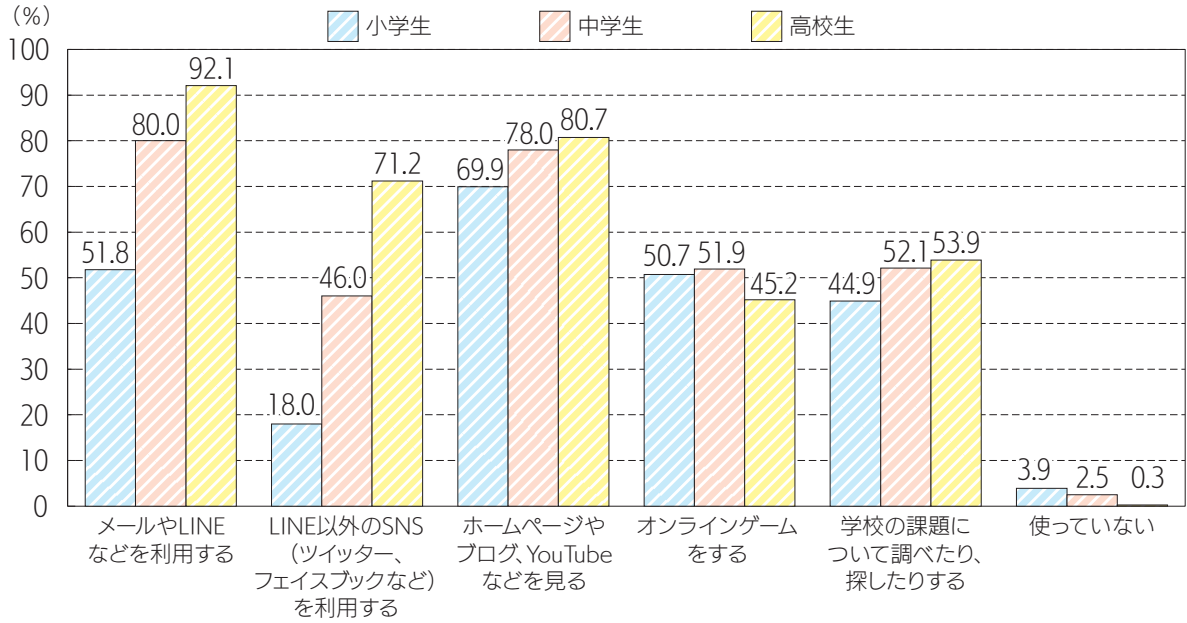
【図15】自分専用のスマートフォン(携帯電話を含む)の所有状況(福岡県)



【図16】平日の学校以外でのインターネット利用時間(福岡県)

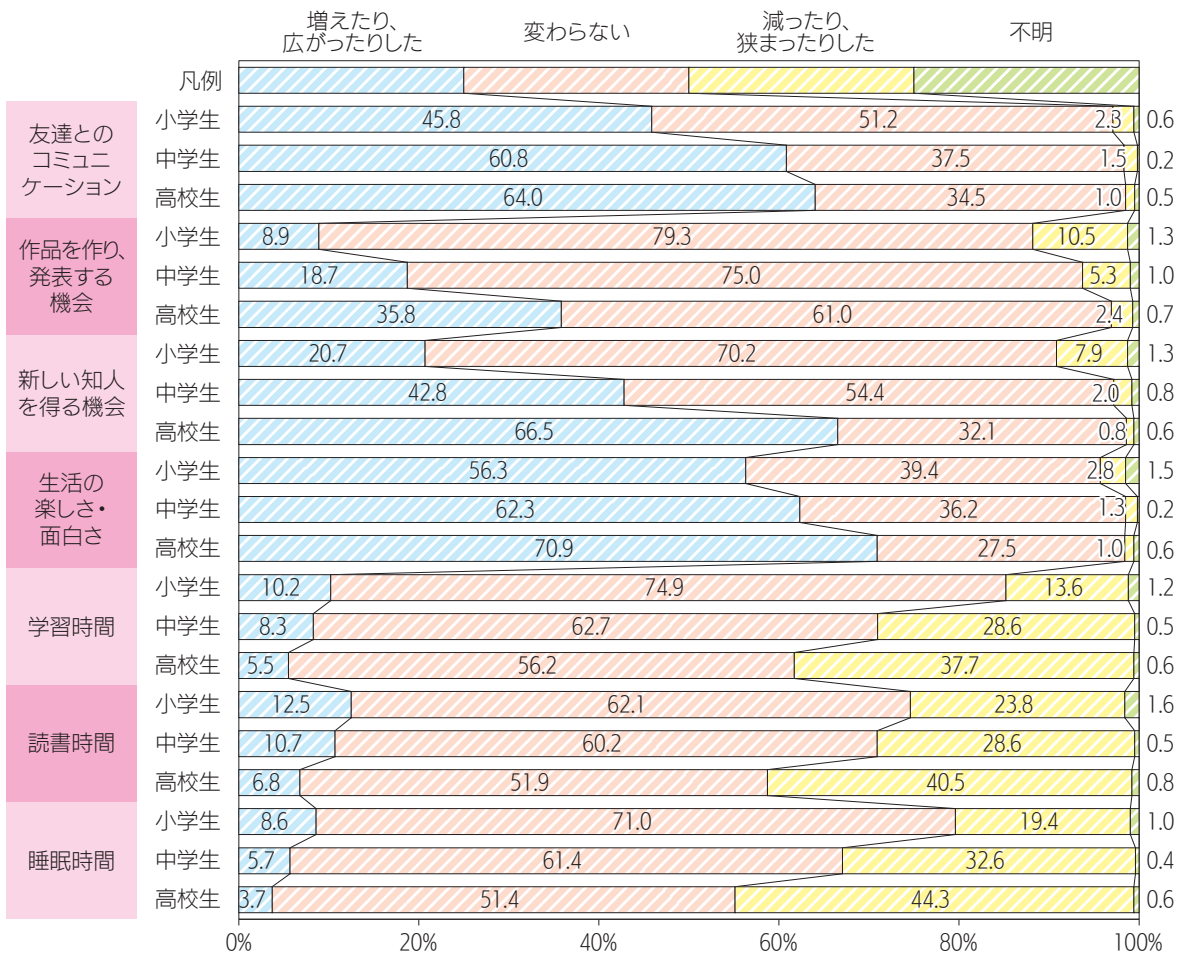


【図17】学校以外でのインターネット利用状況 (福岡県)

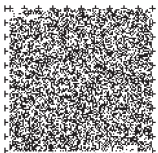


資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

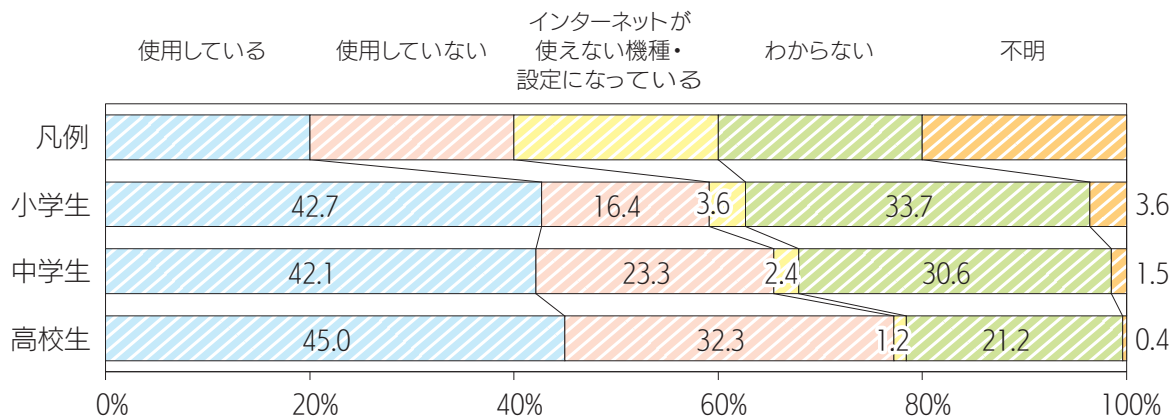
【図18】インターネットを利用するようになってから変化したこと (福岡県)



資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)



【図19】スマートフォン(携帯電話)のフィルタリング使用状況(福岡県)



資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

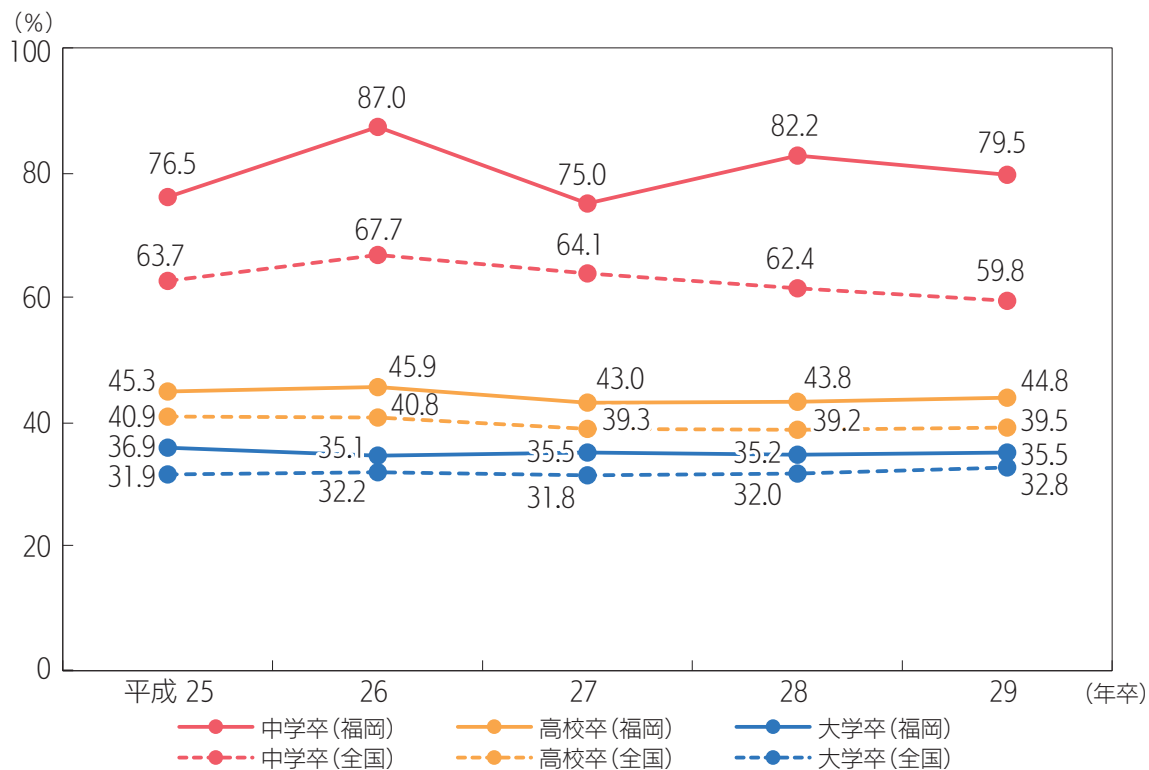
(4) 就労状況

本県の新規学卒者の就職率は、高い状況にあります。卒業後、就職した者のうち3年以内に離職する割合は、中学卒、高校卒、大学卒のすべてにおいて全国平均よりも高くなっています(図20)。

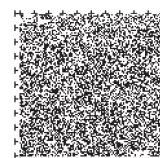
また、若年無業者\*は、全国で約69万人いると推定されています(図21)。

\*若年無業者：15歳～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者

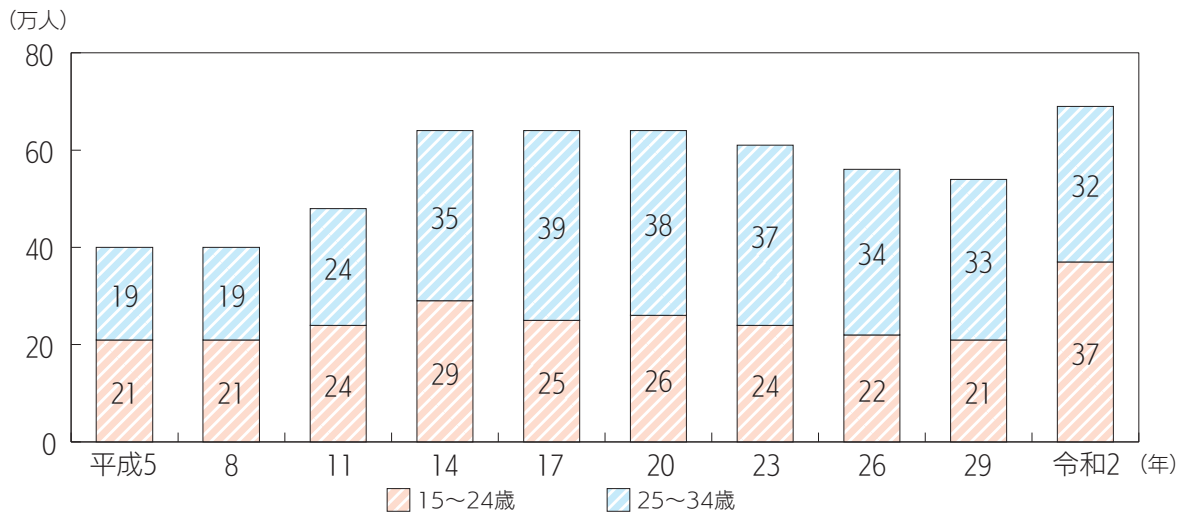
【図20】新規学卒就職者の卒業後3年以内の離職率(全国・福岡県)



資料：厚生労働省「新規学卒者の離職状況」及び福岡労働局「新規学校卒業者の採用手引」



【図21】若年無業者の推移(全国)



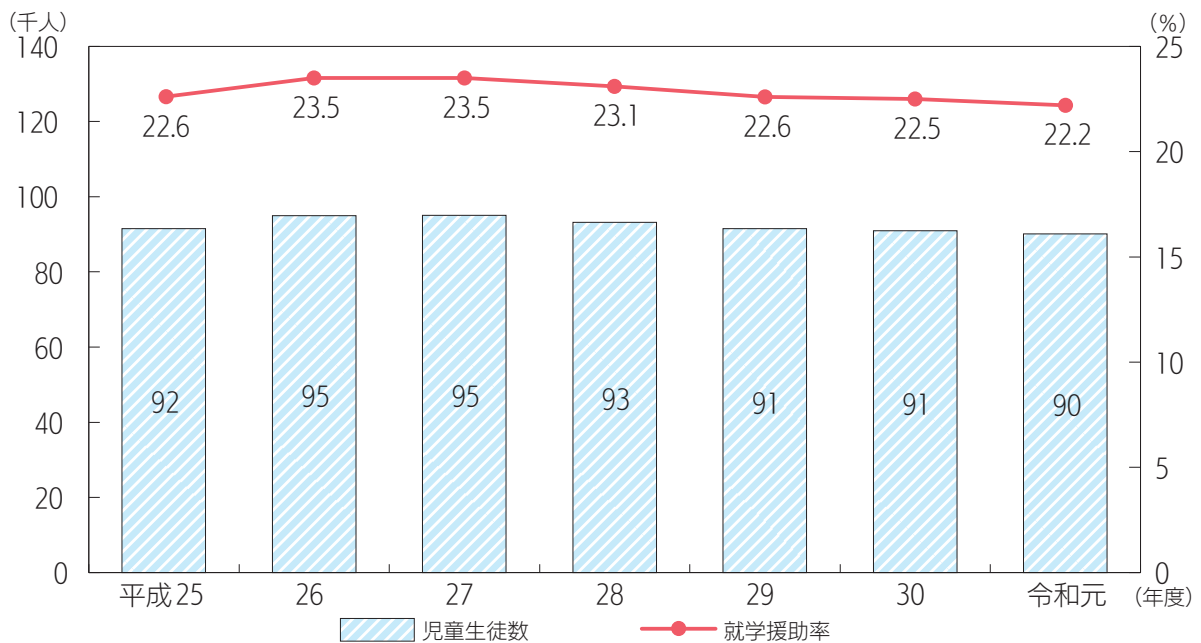
資料：総務省「労働力調査」

### (5) 要保護及び準要保護児童生徒の状況

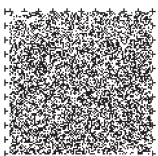
市町村では生活保護の対象となる要保護児童生徒、市町村が認定する準要保護児童生徒に対して就学援助を行っています。

本県における要保護及び準要保護児童生徒の数は、2019(令和元)年度において90,152人であり、公立小中学校の全児童生徒に占める割合は22.2%となっています。また、2013(平成25)年度と比較してみると、2015(平成27)年度までは増加していますが、2016(平成28)年度からは減少に転じています(図22)。

【図22】小学校・中学校における要保護・準要保護児童生徒数の推移(福岡県)



資料：文部科学省「就学援助実施状況等調査」

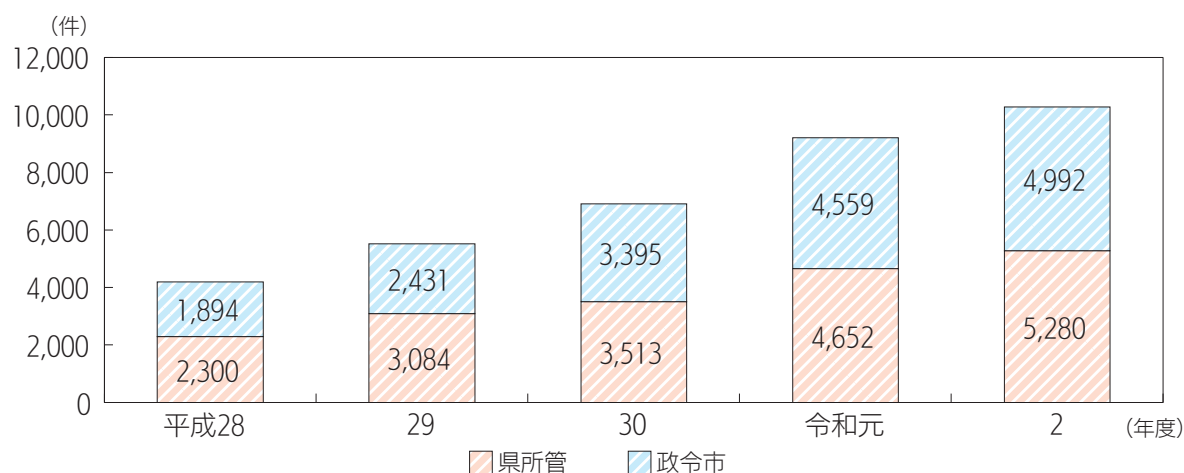


## (6) 児童虐待

全国の児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数は増加を続け、2020(令和2)年度には、205,044件となっています。

本県における相談対応件数も増加の一途をたどっており、2020(令和2)年度は10,272件、前年度の約1.1倍となっています(図23)。

【図23】児童相談所における児童虐待相談対応件数の推移(福岡県)



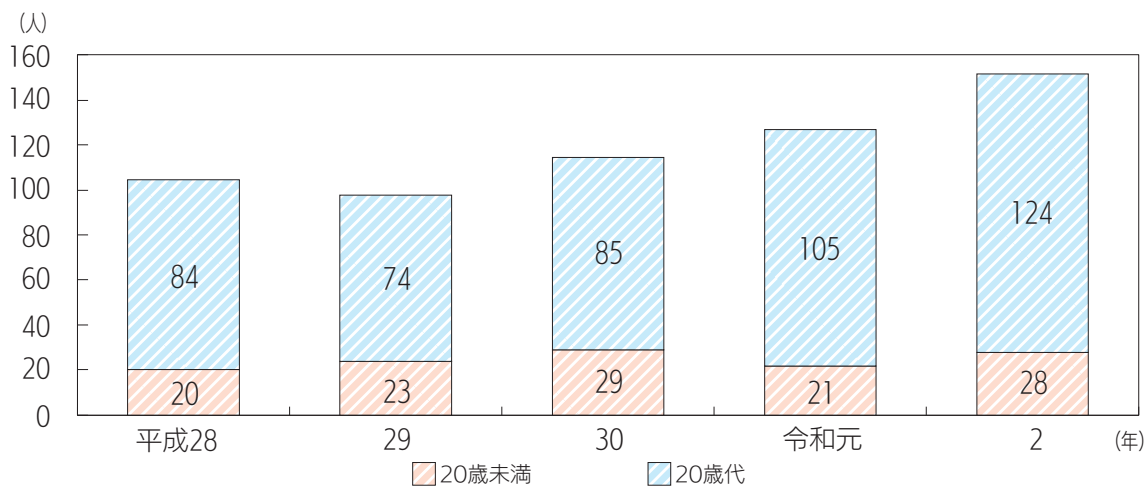
資料：福岡県児童家庭課

## (7) 自殺者

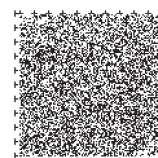
青少年の自殺者は、近年、全国的に増加傾向にあり、本県も同様です。

本県における30歳未満の自殺者数は、2020(令和2)年には過去5年間で最も多い152人となっています(図24)。

【図24】自殺者数の推移(福岡県)



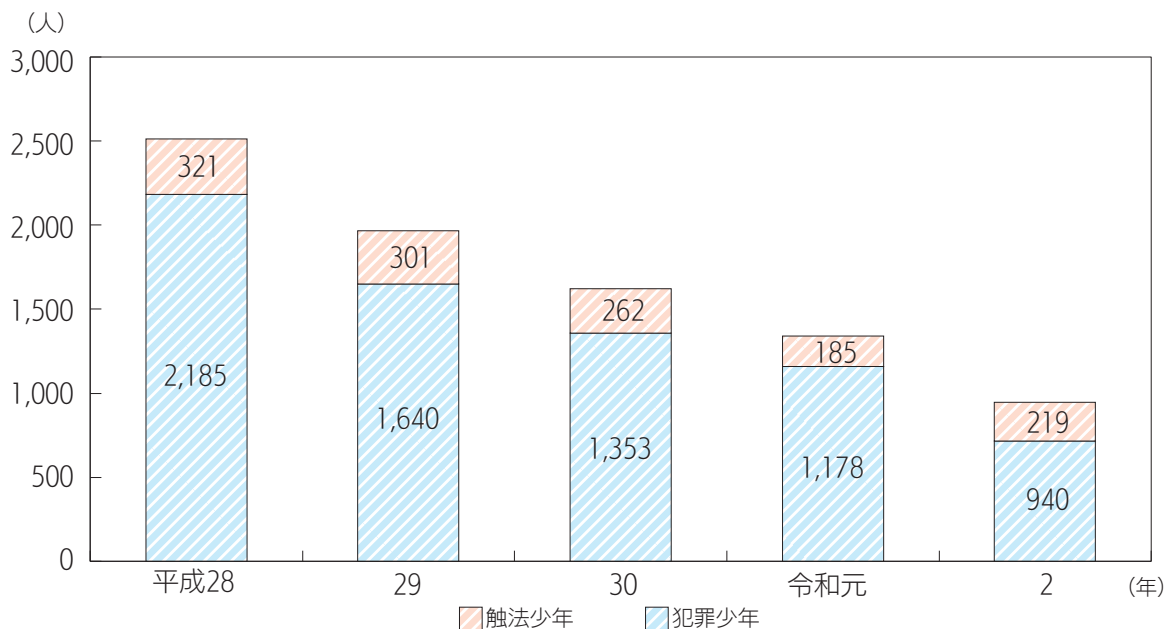
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」



## (8) 少年非行

2020(令和2)年中の本県における刑法犯少年の検挙補導人員は、1,159人(全国7位)であり、2016(平成28)年の2,506人から大幅に減少したものの、全国的に見ると依然として高い水準にあります(図25)。

【図25】刑法犯少年検挙補導人員の推移(福岡県)



※触法少年：刑罰法令に触れる行為をした14歳未満の少年

※犯罪少年：罪を犯した14歳以上20歳未満の少年

資料：福岡県警察本部少年課

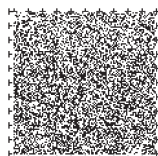
## (9) 犯罪被害

本県の2020(令和2)年中の性犯罪の認知件数(警察に被害の届出がなされた件数)228件のうち、被害者の53.5%が20歳未満となっています(図26)。

2020(令和2)年中に福祉犯<sup>\*</sup>の被害を受けたことにより保護された少年は242人で、そのうち、74.8%(181人)が女子の被害となっています(図27)。

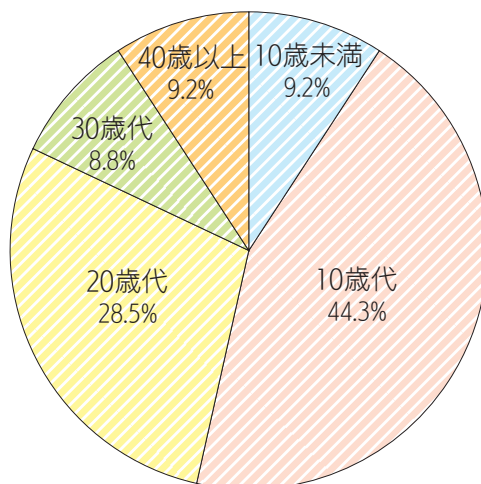
SNSに起因した犯罪被害では、児童ポルノ、青少年健全育成条例違反(いん行)、児童買春等による性的被害が多く発生しています(図28)。

※福祉犯：児童買春・児童ポルノ禁止法違反・児童福祉法違反等、少年の心身に有害な影響を及ぼし、健全な育成を著しく阻害する犯罪



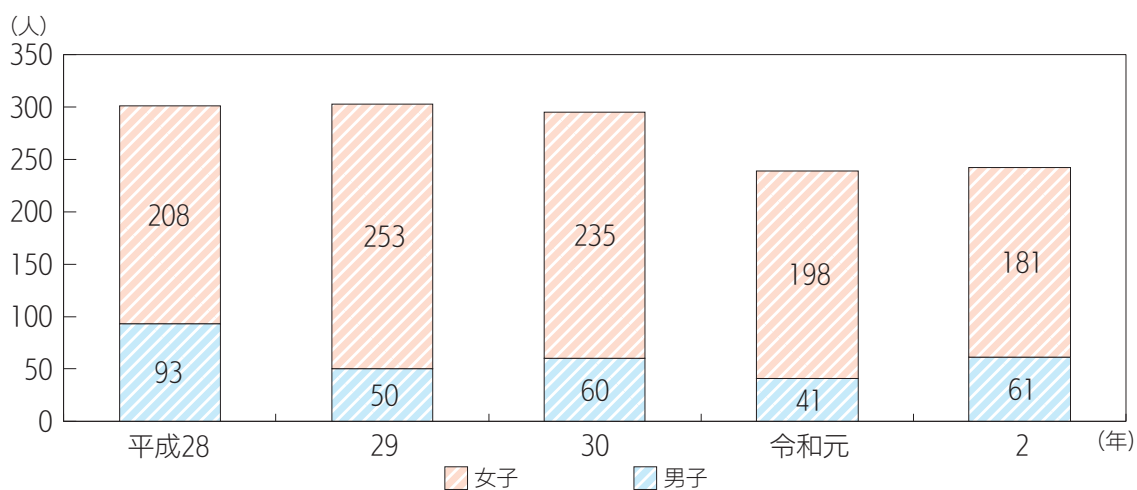


【図26】2020年性犯罪認知件数(228件)の被害者の年代別構成割合(福岡県)



資料：福岡県警察本部生活安全総務課

【図27】福祉犯被害少年の推移(福岡県)

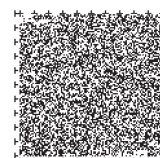


資料：福岡県警察本部少年課

【図28】SNSに起因する犯罪被害に遭った18歳未満の者の推移(罪種別)(福岡県)

罪種	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
児童買春	24	31	35	31	20
児童ポルノ	37	61	40	31	31
青少年健全育成条例違反(いん行)	30	36	54	53	26
児童福祉法	1	3	1		
略取誘拐			1	2	
強制わいせつ				1	
その他 (青少年健全育成条例違反(深夜外出)など)	5	2	5	2	4
合計	97	133	136	120	81

資料：福岡県警察本部少年課



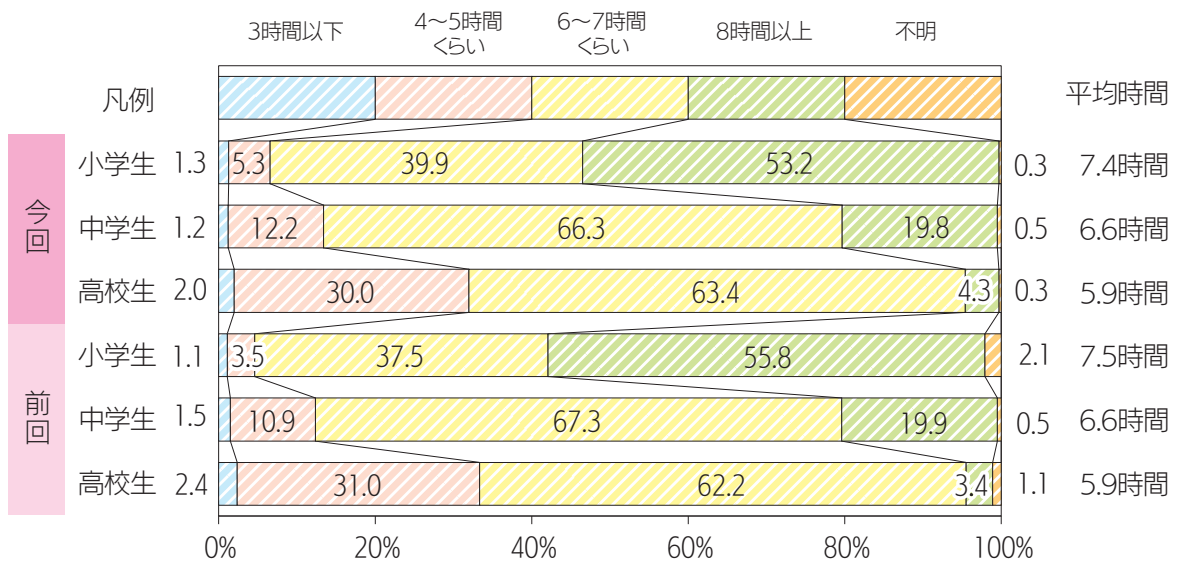
### 3 青少年の現状と意識

#### (1) 生活習慣

「青少年県民意識等調査」によると、小・中・高校生の8割が自分で起床し、6～9割が身の回りのことを自分で行っています。また、平均睡眠時間は、小学生が7.4時間、中学生が6.6時間、高校生が5.9時間となっており、前回調査(2016(平成28)年度)と比較して、大きな変化はありません(図29)。

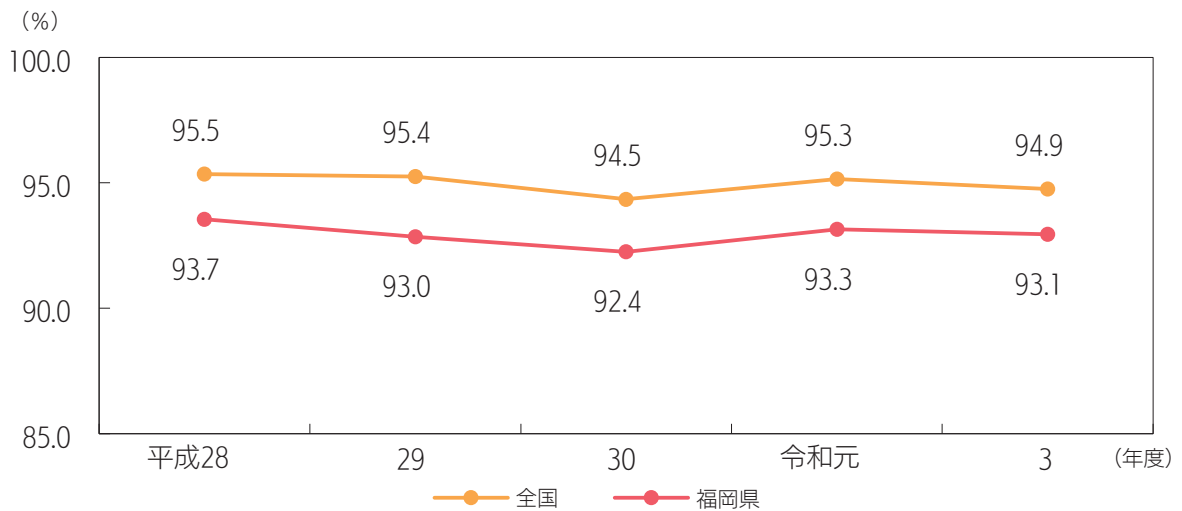
文部科学省「全国学力・学習状況調査」では、朝食を食べる習慣が身についている本県の小学生の割合は、全国平均を下回っています(図30)。

【図29】睡眠時間(福岡県)

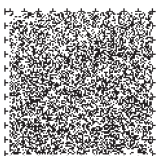


資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

【図30】朝食を食べる習慣が身についている割合(小学校：全国・福岡県)



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

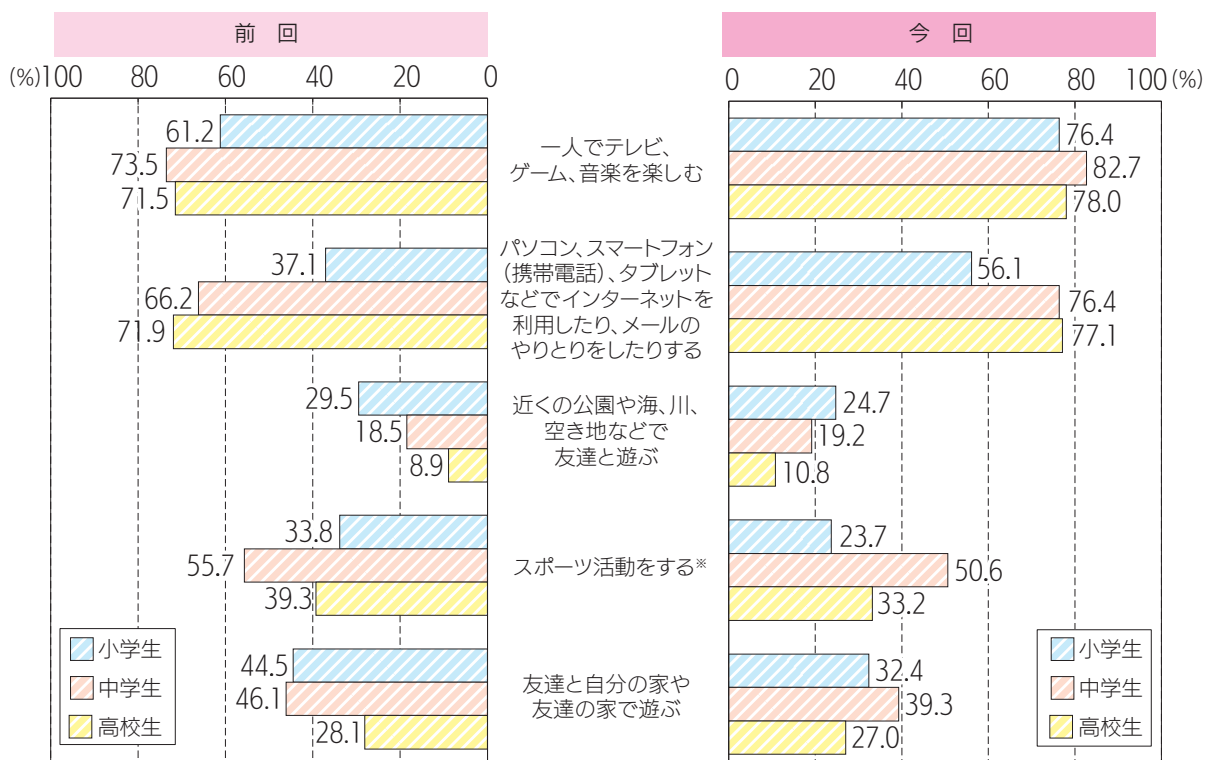


## (2) 時間の過ごし方

「青少年県民意識等調査」によると、学校が休みの日にすることとして、小・中・高校生いづれも「一人でテレビ、ゲーム、音楽を楽しむ」が7割以上と最も多くなっています。

前回調査(2016(平成28)年度)と比較すると、「パソコン、スマートフォン(携帯電話)、タブレット等でインターネットを利用したり、メールのやりとりをしたりする」は小・中・高校生すべてでやや増加している一方、「スポーツ活動をする」、「友達と自分の家や友達の家で遊ぶ」は小・中・高校生すべてでやや減少しています(図31)。

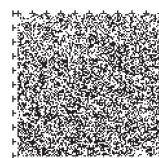
【図31】学校が休みの日にすること(福岡県)



\*中学生調査、高校生調査は「スポーツ活動をする」に、部活動での活動も含む

資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

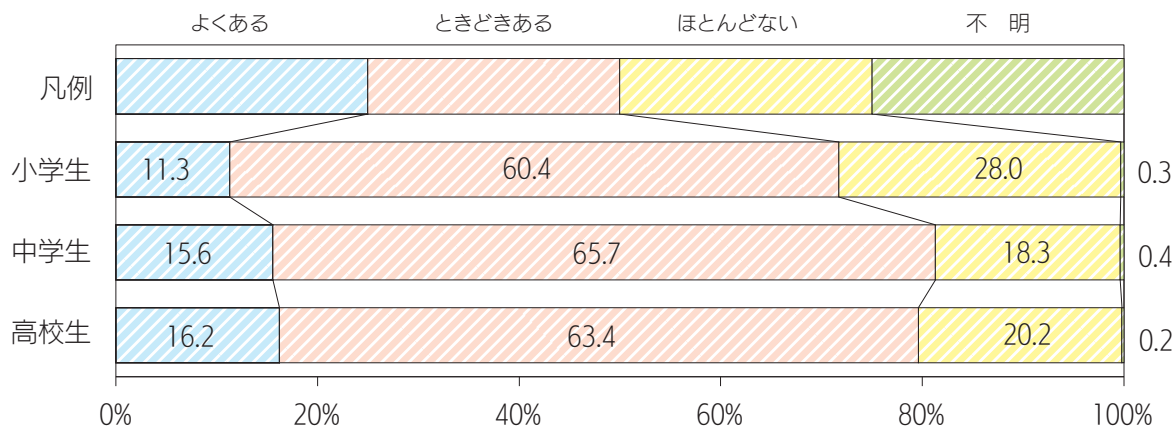
※前回調査は2016(平成28)年度



### (3) 日ごろの考え方

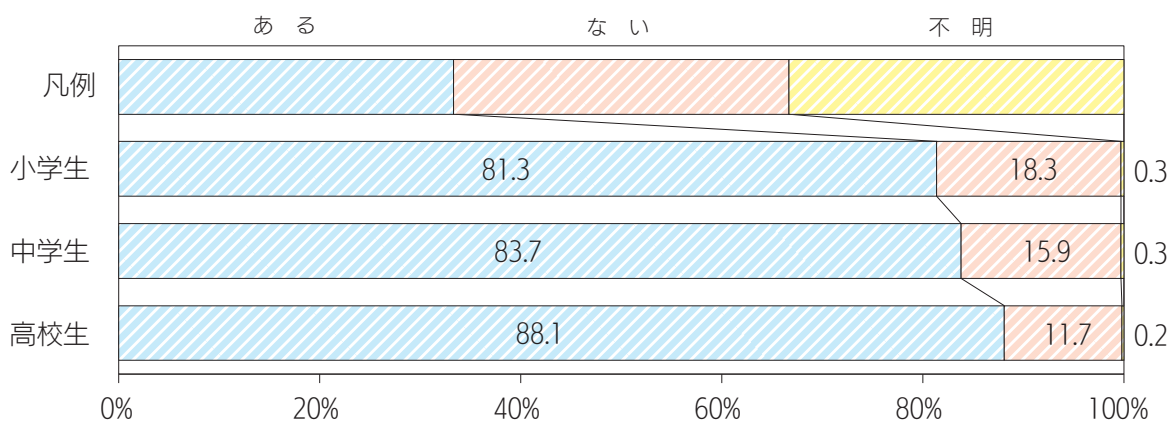
「青少年県民意識等調査」によると、小・中・高校生の7割以上が、「日ごろの生活の中で、何をするにしても自分の力だけではどうしようもないという感じになることがある」と回答している一方、8割以上が、「自分に実力をつけるために何かをやってみる気持ちがある」と答えています(図32)(図33)。

【図32】自分の力だけではどうしようもないという感じ(福岡県)

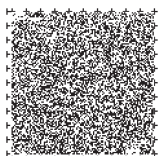


資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

【図33】自分に実力をつけるために何かをやってみる気持ちがある(福岡県)



資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

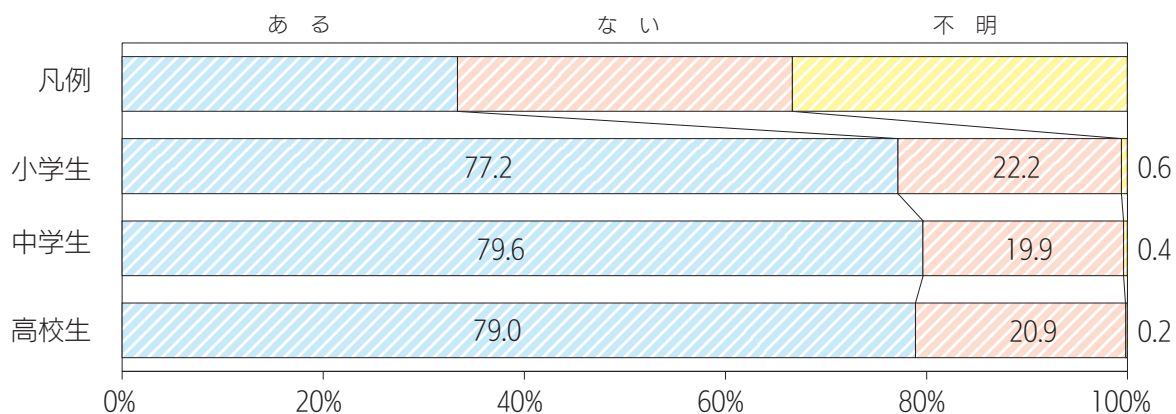


#### (4) 社会貢献意識

「青少年県民意識等調査」によると、社会貢献したいという気持ちは高い傾向にあります(図34)。

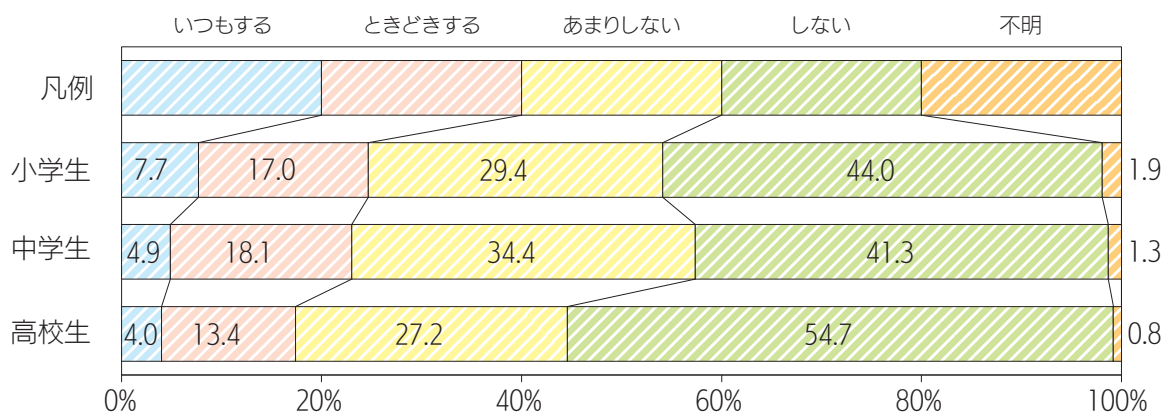
一方、社会貢献の一つであるボランティア活動に参加していない割合は高くなっています(図35)。

【図34】社会のためになることを少しでもしなければという気持ちがある(福岡県)

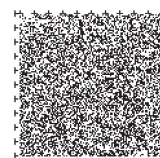


資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

【図35】ボランティア活動に参加する(福岡県)



資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)



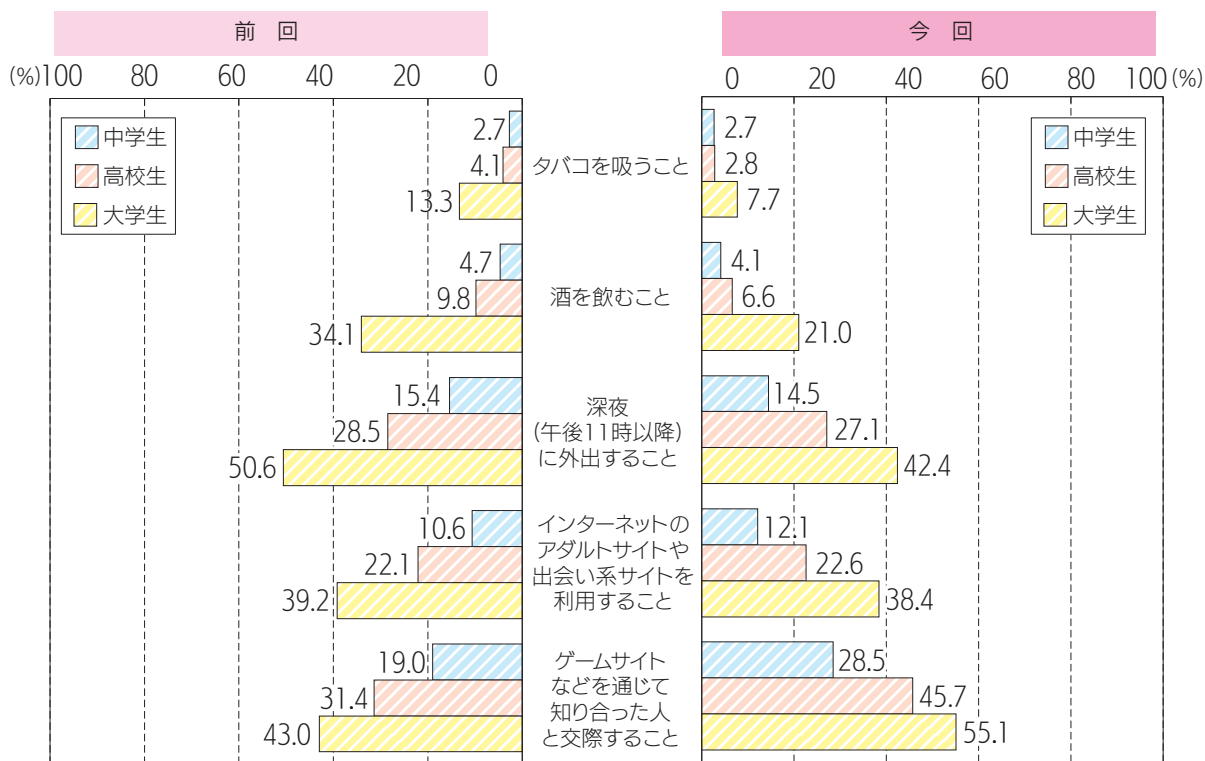
## (5) 規範意識

「青少年県民意識等調査」によると、青少年の規範意識は、年齢が上がるにつれて「悪くない」の割合が増加傾向にあります。

前回調査(2016(平成28)年度)と比較すると、ゲームサイト等で知り合った人との交際については、「悪くない」の割合が増加しています。

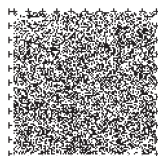
一方で、その他の項目では、「悪くない」は横ばいまたは減少傾向にあります(図36)。

【図36】中・高校生及び大学生が「悪くない」と思う行為(福岡県)



資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

※前回調査は2016(平成28)年度



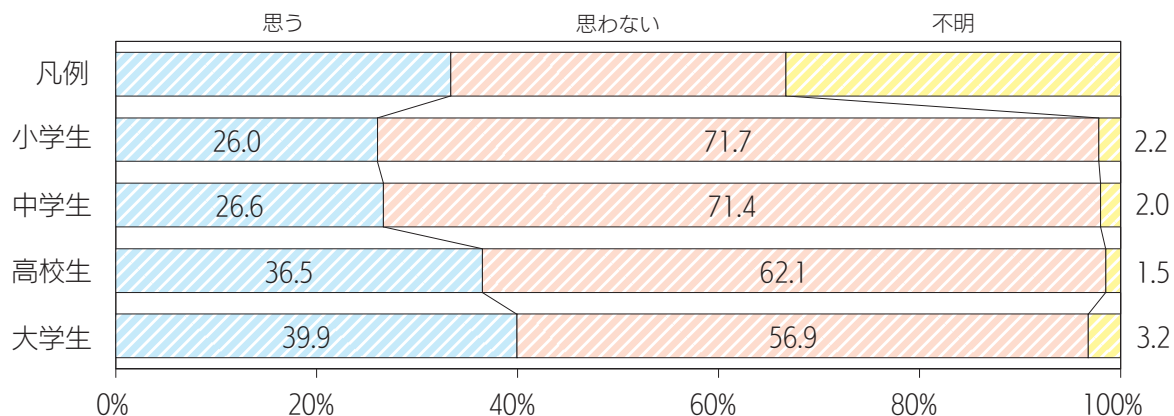
## (6) グローバル化に向けた意識

「青少年県民意識等調査」によると、保護者の7割以上が、子どもが海外に出ることに賛成しているのに対し、小・中学生の7割、高校生・大学生の6割前後が、海外留学や海外で仕事をしたいと思っていない(図37)(図38)。その理由としては、小・中・高校生及び大学生のすべてで「語学の自信のなさ」が最も多くなっています(図39)。

また、「令和元年版子供・若者白書(内閣府)」によると、国際社会の一員として必要な「異文化理解力・対応力<sup>\*</sup>」について、「十分身に付けていると思う」又は「ある程度身に付けていると思う」と回答した日本の若者は約3割となっており、調査対象国の中では最も低くなっています(図40)。

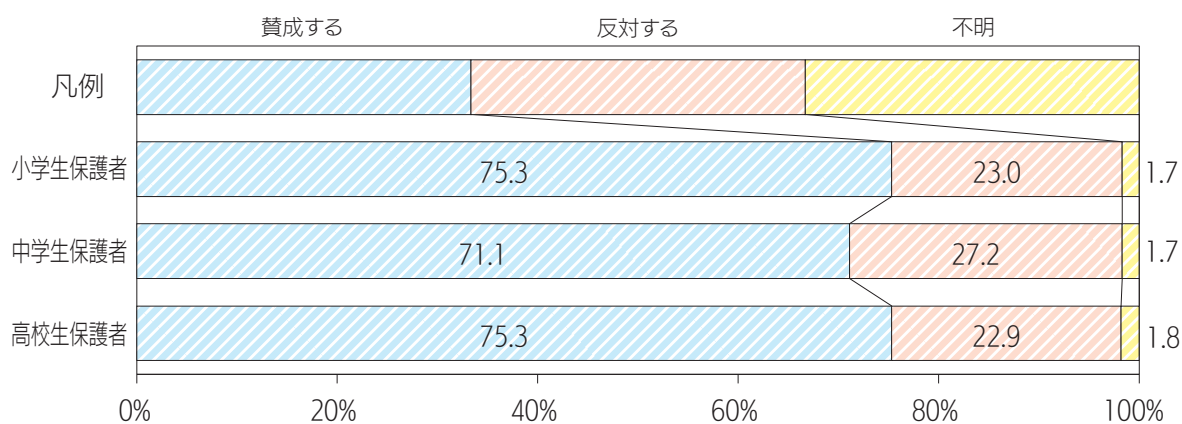
<sup>\*</sup>異文化理解力・対応力：自国と他国の文化・歴史・社会を理解し、互いの生活・習慣・価値観等を尊重して、異なる文化の人々とともに生きていくことができる態度や能力のこと

【図37】海外留学や海外で仕事をしたいと思うか(福岡県)

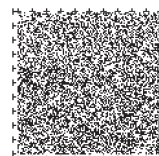


資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

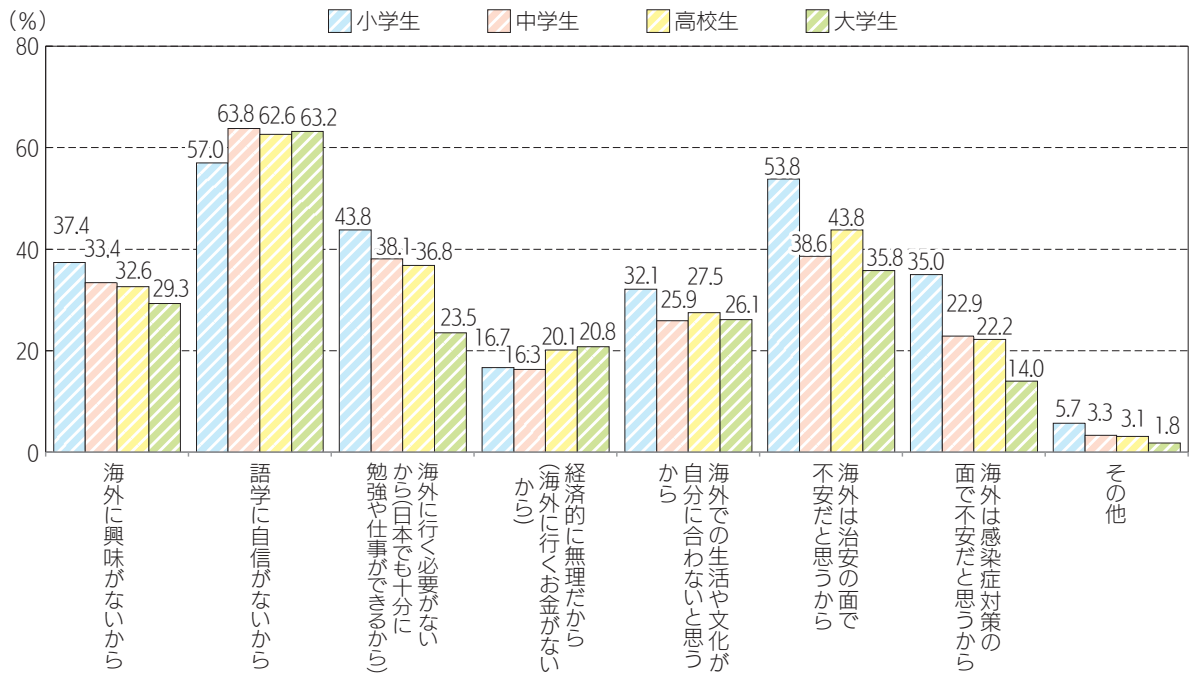
【図38】子どもが海外留学や海外で仕事をするについての意識(保護者調査)(福岡県)



資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

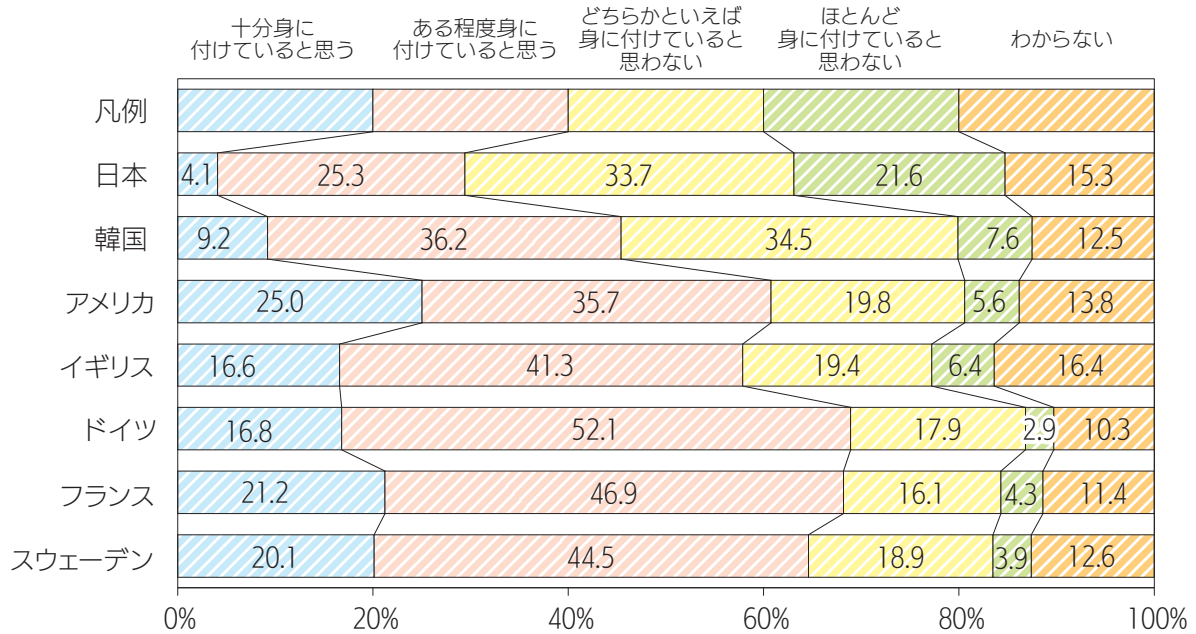


【図39】海外留学や海外で仕事をしたいと思わない理由(福岡県)

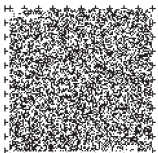


資料：福岡県「青少年の健全育成に関する県民意識等調査」(2020(令和2)年度)

【図40】異文化理解力・対応力(諸外国比較)



資料：内閣府「令和元年版子供・若者白書」





## (7) 新型コロナウイルス感染症の影響

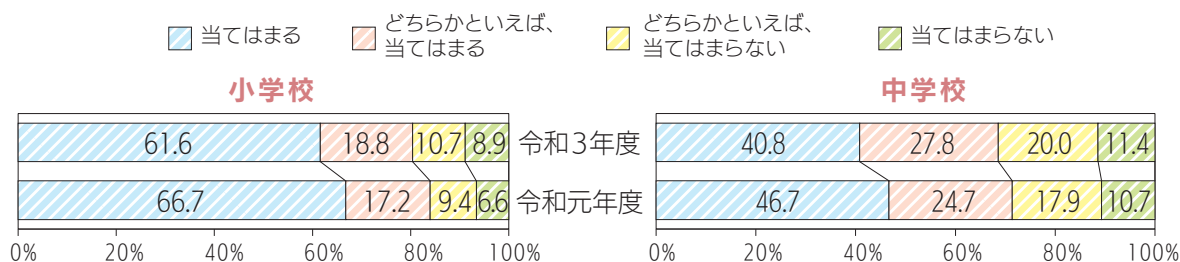
新型コロナウイルス感染症の拡大は、青少年の日常にも影響を与え、臨時休校や学校行事の中止・延期等に加え、地域の行事への参加等が難しくなりました。

全国学力・学習状況調査によると、新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べ、「将来の夢や目標を持っている」「学校に行くのは楽しいと思う」「今住んでいる地域の行事に参加している」小・中学生は、いずれも減少しています(図41)(図42)(図43)。

新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、小・中学生の半数以上が、勉強に不安を感じていました(図44)。

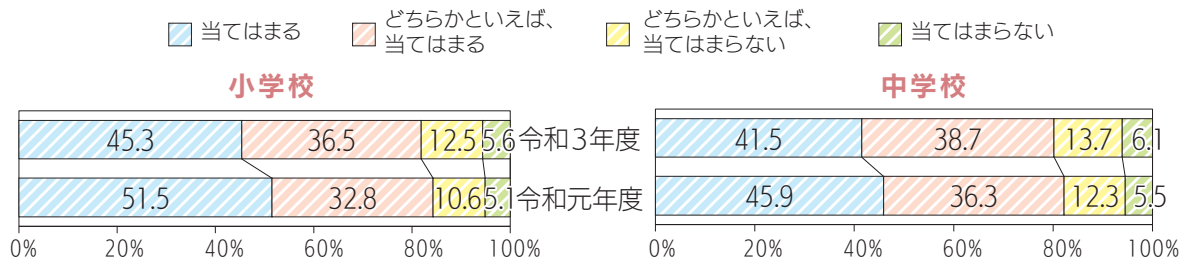
また、小・中学生の約半数が、規則正しい生活を送っていました(図45)。

【図41】将来の夢や目標を持っていますか(福岡県)



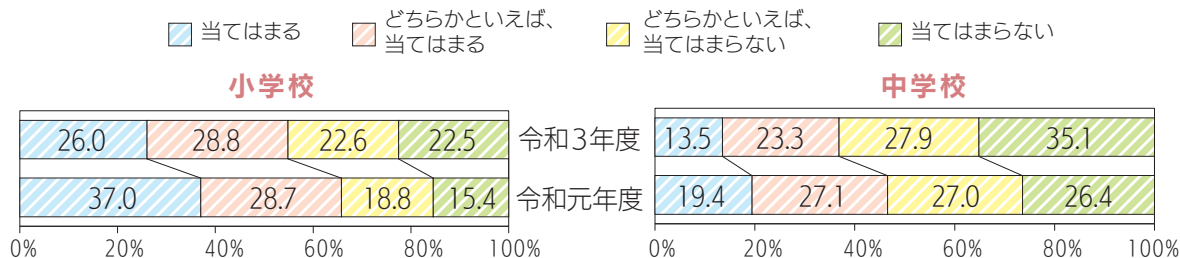
資料：文部科学省「平成31(令和元)年度・令和3年度全国学力・学習状況調査」

【図42】学校に行くのは楽しいと思いますか(福岡県)

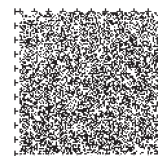


資料：文部科学省「平成31(令和元)年度・令和3年度全国学力・学習状況調査」

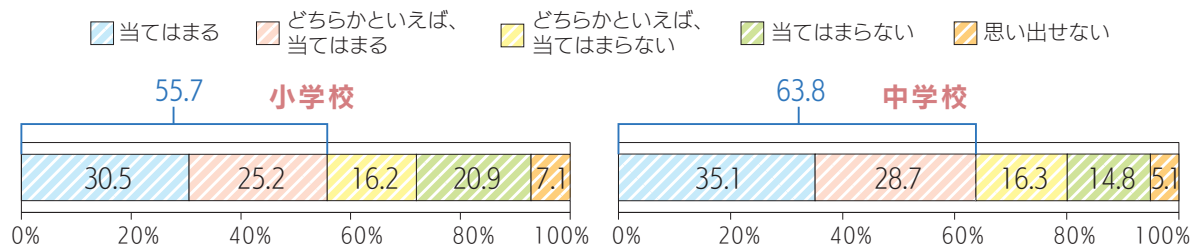
【図43】今住んでいる地域の行事に参加していますか(福岡県)



資料：文部科学省「平成31(令和元)年度・令和3年度全国学力・学習状況調査」

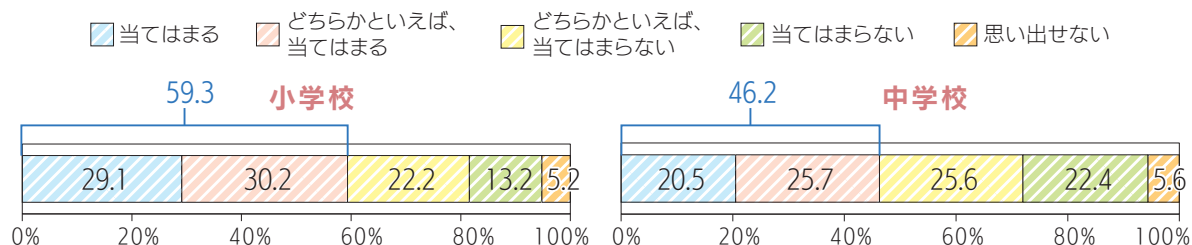


【図44】新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか(福岡県)



資料：文部科学省「令和3年度全国学力・学習状況調査」

【図45】新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか(福岡県)



資料：文部科学省「令和3年度全国学力・学習状況調査」

